

2024年度 自己評価及び学校関係者評価書

2025,3,18

認定こども園 カトリック聖園こどもの家

◎ 園の教育目標 『自分で考え、判断し、主体的に行動する子ども』

- ・やさしさと強さをもった子ども
- ・すべてのことに感謝する子ども
- ・人を大切にし、思いやりのある子ども
- ・祈りを通して、平和を愛する子ども

○ 今年度の経営の重点

- ・組織的な研修による保育の質の向上
(「10の姿」のカリキュラムの学びなおし)
- ・経営参画意識の向上(副主任、保育リーダーに責任を持たせ業務を遂行させる)
- ・未就園児教室の広報活動の充実化(ホームページの更新、ちらしの掲示など)

【 評価はA、B、C、Dの4段階 】

(達成率 A:100~75 B:74~50 C:49~25 D:24~)

<達成状況 上:今年度 下:昨年度>

| 分野 | 評価項目 | 自己評価 | | | 関係者評価 | |
|-----------------|--|--------------|----|---|----------|---------|
| | | 達成状況 | 評価 | 改善の方策 | 自己評価の適切さ | 改善策の適切さ |
| 教育・保育計画の編成と実施内容 | 園の建学の精神にあるキリスト教の理念を理解し、こども園教育・保育要領に基づき子どもの生活実態に即した計画作成に努めている。 | 94.6 93.3 | A | 外部講師による宗教講話を年3回ではあるが、キリスト教の理念やお祈りの言葉、クリスマスに向けた取組をわかりやすく話をしていただいた。今後も、実際の指導にも生かすことができる研修に取り組みたい | A | A |
| | 0歳児から就学前までの園児の発達の連続性を考慮し、生命保持や情緒の安定など養護の行き届いた保育・教育を展開している。 | 97.3 96.7 | A | 0歳から就学前までの6年間の成長の姿を乳児、幼児双方の保育の専門性を発揮しながら目指すこどもの姿を明らかにしていく。個々の子どもの発達の様子を共有し連携・交流する視点を明確にしながら時間と場をつくっていくことが今後の課題である。 | A | A |
| | 園児一人一人が主体的に活動し自発性や探索意欲を高めるとともに自分への自信を持つことが出来るよう適切に働きかけている。 | 97.3 93.3 | A | 日々の保育や行事への取り組みにおいて、子どもたちの思いを育み、活かす保育に心がけていたことで、保育教諭の意識も高まっていたと思われる。活動や行事のねらいを達成するとともに、子どもたちの意欲を喚起と達成感を味わえる取り組みを進めていきたい。 | A | A |
| | 乳幼児同士のかかわりの姿を捉え一人一人が安定感を持ち、友だちと思い合ったり協力したり出来るよう働きかけている。 | 95.5 80.0 | A | 乳幼児の交流の場は設定されているが更なる交流の場を求めていく意見があった。異年齢活動を通して、相互により関係となる活動に取り組んでいきたい。 | A | A |
| 関係者評価委員の意見 | 乳幼児同士の関わりについては、昨年より高い評価となっており、一昨年度から比べると格段に高い評価であり、先生たちも教育目標、今年度の重点目標を意識して、幼児・乳児の交流の場が増えていたことが伺える。 | | | | | |

| | | | | | | |
|----------------|---|--|---|---|---|---|
| 保育教諭としての資質の向上 | キリスト教の教えを学び、乳幼児に伝える指導法を研究したり、日常的に宗教講話や神様の話をしている。 | 86.8 80.0 | A | 日々のお祈りの時間の積み重ねや待降節等の宗教行事の指導の在り方は、宗教講話での研修もあって、保育教諭が自らの姿をお手本として子どもたちの前で自信をもって話をする姿から子どもたちの心の教育に繋がっていたと思われる。 | A | A |
| | 組織的な研修を行う中で、時代の流れ、求められていることをしっかりと捉え、日常の保育に生かしている。 | 88.4 73.3 | A | 乳児・幼児担当者が一堂に会した研修の時間は、保育を優先しているため、時間設定が難しい。様々な課題が見えているが、短期、中長期で取り組む課題や保育で必要とされている課題を検討し、組織的、計画的に取り組んでいきたい。 | A | A |
| | 資質の向上を図るため、主体的、計画的に研修会や研究会に参加し終了後は研修報告を提出し還流を行っている。 | 91.2 90.0 | A | 個々のスキルアップにつながる研修会への参加は積極的に行われ、報告書の提出もしっかり行われている。自園で活かす視点や研修の成果を保育に活かすための取組が今後の課題である。 | A | A |
| 関係者評価委員の意見 | | 昨年度B評価だったところが今年度はA評価になった。今年度の改善策として取り組んだ「個々が学んだ内容を生かすために全体へ周知する」手立てが良かったと思われる。 | | | | |
| こどもの安全と健康を守る方策 | 危機管理に関するマニュアルが整備され、適切な環境の維持に努めるとともに施設内外の設備、用具等衛生管理に努めている。 | 94.2 96.8 | A | 危機管理マニュアルの更新やヒアリハット等、事案が発生した時に見直しと改訂が行われている。安全点検についても毎月担当者が交代して行い、報告がされている。施設は建設して10年が経ち、様々なところで不具合も出てきているので、メンテナンスが必要なものも出てきた。 | A | A |
| | 事故の発生に備え、自然災害や不審者侵入に対する訓練を行い、事後反省点を洗い出し改善を図っている。 | 95.1 90.0 | A | 毎月の避難訓練では、毎回、設定や内容を変えながら、事後反省も出来ている。まずは子どもたちの安全確保、人員の確認、保育教諭間の連携を柱にしながら、最終的には、子どもたち全員が安全に避難できることを目標に行っていく。 | A | A |
| | 乳幼児期にふさわしい食生活が展開され、適切な援助が行われるよう、食事の提供を含む食育計画を作成しその評価及び改善に努めている。 | 93.2 96.8 | A | 食育計画に基づいて、望ましい食事の定着を図っている。毎月、給食会議を開き、日々提供される給食やおやつの子どもの反応を伝えられ、管理栄養士と連携して進めている。園だよりの「食のコーナー」で食育に関わる話題は、保護者にも好評である。 | A | A |
| 関係者評価委員の意見 | | 子どもの安全にかかわっては、命にかかわることなので今後も継続して丁寧に取り組んでほしい。食育、給食に関しては、保護者から温かいコメントが寄せられており、今後も安全・安心な給食の提供を継続して行ってほしい。 | | | | |

| | | | | | | |
|-----------------|--|---|---|--|---|---|
| 子育て支援、保護者との連携 | 保護者との信頼関係を築き、日常的に子どもの成長を伝え、子育ての相談に応じ「ともに育てる」という思いを高めている。 | 91.7 87.1 | A | 子どもの成長した姿を保護者に丁寧に伝え、喜びを分かち合っている姿が見られる。今後も「ともに育てる」意識をもって保護者の子育てを支援することを第一に信頼関係を築いていきたい。 | A | A |
| | 本園では、子どもが健やかに育成される場所を提供し、地域の乳幼児、卒園生の教育及び保育の中心的な役割を果たすよう努めている。 | 95.9 100 | A | 「未就園児教室(エンゼル教室、せいえん広場)」、「子ども会(卒園児対象)」を今年度も予定通り実施できた。園の施設を開放し、保育の様子を見てもらう機会、卒園児が小学生となって成長した姿を保育士も喜びとしながら相互に楽しい時間となることを目指していきたい。 | A | A |
| 関係者評価委員の意見 | | 前年度より、4ポイント下がっている項目があるが、今年度においても取り組みが引き継がれている成果があり、今後も継続した取組を期待したい。 | | | | |
| 開かれた園づくり | 園だよりやホームページ、参観・懇談などを通して園の情報を広く公開するとともに保護者・地域の声にも耳を傾け、双方向に開かれた園づくりに努めている。 | 90.4 93.5 | A | 今年度HPで園の情報提供は行ったが、更新をしていくことが難しかった。ブログの更新については、定期的に行い子どもたちの様子を発信することができていた。緊急を要する連絡は、レーザーキッズを活用して保護者の連絡することができた。今後も個人情報の管理をしながら、双方向に開かれた園づくりを発信していく。 | A | A |
| | 小学校訪問・交流などで小学校教育への円滑な接続を図るとともに、商業施設を含めた地域との連携の中で季節を感受する子どもの心を育てている。 | 97.4 93,3 | A | 近隣の中央小学校との交流が積極的に行われ、幼保小連携事業の充実が図られてきた。また、近隣の保育園との横の交流も行い、双方向に顔を知り、活動することで進学の楽しみや意欲になったと思われる。中央小のスタートカリキュラム作成に向けての検討会に参加した。保護者の理解と協力もあり、地域のハロウィンパーティーイベントで協力、教会のバザーでブース出店、園児の歌の発表、商業施設ツリー点灯式等、地域と連携した取組にも参加し、園が目指すこどもの姿として年長の姿を知ってもらう機会となった。 | A | A |
| | 園の評価結果を公開することにより、透明性を図り信頼される園を目指している。 | 97.4 96.7 | A | 年度毎の達成率の比較によって、どの項目が上がり、下がっているか、また、全体としてはどうなのかという評価結果を保護者や外部に公表することで透明性を図っている。また、各項目において、改善の見通しをもつことで現状で満足することなく今後の保育の充実を目指していく視点が見える。 | A | A |
| 関係者評価委員の意見 | | 今年度においても取り組みの成果に申し分ない。 | | | | |
| 関係者評価委員による全体の意見 | | 全ての項目がAと先生方の不断の努力により確実に達成されている。子どもたちの笑顔を見ていると、先生たちの努力の実りであると思います。子どもたちや保護者にも信頼され愛されている「聖園こどもの家」であると感じました。今年度においても評価全体を通して成果があり、問題は見当たらない。強いて言えば、高い評価の項目、明らかに改善がみられた項目についてA評価となった記述を期待したい。 | | | | |